

ゆき

農林水産省登録認定機関・NPO法人 熊本県有機農業研究会 発行
〒861-8028 熊本市東区新南部 2-5-13 TEL:096-223-6771 FAX:096-223-6772

2013/07 夏号

42号

通刊79号

<http://www.kumayuken.org/>
info@kumayuken.org



【絵：小川美弥子】

爽やかな酸味で、香り付けやくさみ消しにおなじみの果実。花は白色です。〇〇〇色の実の皮部分に、香り成分が多く含まれています。

- ＊養成塾集合セミナー
「和田ユイ子さんに学ぶ！」
 - ＊内田前理事長退任挨拶
 - ＊オーガニック食クエスト【BAOBAB】
 - ＊各部会の活動
 - ＊総会報告ほか
- 事務局からのお知らせ



連載企画！

種＊花クイズ

Q.右の写真は何の食べ物の花でしょう？

- ＊正解者の中から抽選で3組（計6名様）に、有機食材を使ったレストラン等で使える約1000円相当のチケットをプレゼントいたします。こたえがわかった方はぜひ応募下さい。
- ＊応募先やチケット利用可能店など、詳しくは4面へ！

種はこんな姿ですー
食卓でしほるとき見かけますね



身土不二

熊本県有機農業研究会
理事長 青木悦朗

思いがけず第十三回通常総会において、全国的にも有数の規模と伝統を誇る本会理事長職という大役を承り、あらためて土と命を守る運動と有機農業の有様を考えさせられています。

私自身はJAの営農指導員として、野菜栽培から産地組織作り、青色申告の普及、農家の経営再建と負債整理などを担当し、また、町役場に出向しては場整備や構造改善事業などにも携わらせて頂きました。このJA在職の間は実に勝手気ままに、悔いなくやらせて頂いたことを心から感謝しています。

しかしながら残りの人生を考えたとき、健康面で特に大きな不安が無い中でざっと考えて二十年もあれば、まだまだひと仕事もふた仕事もやるべき時間があることに思い至り、五十七歳で退職し、農業に再チャレンジしながら少しでも地域社会に役立ちたいと思っています。よくしたもので退職すると、隣保班長から道路委員、会計、区長と集落の役職が次々と巡ってきて、更には福祉関係の役割まで担う羽目になってきます。

有機農業への関心は、多くの方と同じく「複合汚染」「わら一本の革命」「成長の限界」といった図書との出会いから始まり、本会設立当初から十年程度は会員でも有りましたが、職務多忙の中についつい離れてしまいい、退職を期に再び関わりを持たせて頂いているところに今回の仕儀となり非常に驚いています。

これを機会に初心にかえり、一日も早くお役にたてるよう頑張りたいと思います。慣れない仕事でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、やる気だけは人一倍あります。どうかご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

《しんどぶじ》・・・身体は土と離れてはあり得ないといふこと。
農業を営むひとたちにとって大切なキーワードとなっています。

熊本県有機農業研究会 前理事長 内田 敬介 ～理事長退任のあいさつ～

私は 2009 年 2 月、突然熊有研の理事長に就任することになり、とまどいでしたが、多くの理事・職員・会員・関係機関のみなさんに支えられ、2 期（4 年間）務めることができました。心から感謝申し上げます。

私は、30 数年間にわたる本県の有機農業運動に対する社会の認知度の低さを実感していました。日本農業は、「農業基本法」（1961 年）のもとで農薬・化学肥料が多投され農民、消費者の健康被害、また土壌汚染、河川、海など環境破壊をもたらし、いのちの危機に瀕していました。そこで 1970 年代、熊本では心ある農民、消費者、医者を中心に、土といのちとくらしを守る有機農業運動が始まりました。しかし、当事者は経済的、社会的に苦勞の連続でした。

このような状況を踏まえて、県やJAグループ、社会に対して働きかけ、もっと有機農業を知ってもらい、開かれた組織にしていくことが大切だと考えました。2010 年、有機農業が熊本県グリーン農業推進方策に位置づけられ、とくに、「有機農業新規就農者養成塾」は熊有研の3大事業の一つになりました。一方、JAの直売所に有機農産物コーナーの設置を見ました。

私は、2011 年 6 月、東電福島第一原発事件の被災地、南相馬市、飯館村などを訪ねました。土壌汚染のため田植えができない農民の苦悩、一瞬にして離村を余儀なくされた飯館村の虚しさ、子孫にわたるいのちの危機を感じました。

「いのち」より「効率、経済優先」の現代社会で、土といのちとくらしを守る有機農業運動の「出番」です。有機農業運動の歴史を踏まえ、青木新理事長と共に新たな運動の展開を期待します。



☆特集☆ 養成塾集合セミナー「和田ユイ子さんに学ぶ！」

今年で3年目を迎えた熊有研の新規就農者支援事業。普段はそれぞれの受入農家で汗を流す研修生が月に一度集まり、就農時に役立つ知識や技術を習得するための講座「集合セミナー」を毎月実施しています。3月末には山都町の和田ユイ子さん宅にうかがい、食品加工の基礎、そして長年にわたり培われてきた農業の知恵を学びました。



● 自然とともに、ムダなく、余りなく

こどもの頃から野山を駆け回り自然とともに生活してきたユイ子さん。季節の野菜を作り、乾燥や漬け物など身近な加工技術をうまく活用することで、一年中自然の恵みを味わい、身体を動かして健康に暮らしています。まさに身土不二の暮らしであり、医療費や食材購入費がかからない分、お金にとらわれる必要もないとのこと。

ムダがないのは野菜や道具の使い方だけではありません。ちょっとした農作業でも行きと帰りに手ぶらで移動しないこと、道具や設備をむやみに買わないこと、たとえ遊びのときでも人と会って話すときには必ず何かを学び収穫を得ること・・・。「どこのカラスも黒い（どこでも大差ない、ここと決めたら骨を埋める覚悟で）」と教えられてきたというユイ子さん。新規就農をめざす研修生に向けて、とてもシンプルだけれど、ついおろそかになりがちな基礎の部分を、ユーモアを交えながらしっかりと教えていただきました。

ユイさんの暮らしぶりや謙虚な姿勢、そして心の豊かさに、参加した研修生も感心するばかり。できるかぎり多くのことを学んで帰ろう！という意欲がわいてきます。

● 自然は知っている

メイン実習のこんにやく作りのときには、生ではイノシシですら食べないというこんにやく芋の特性や、草や灰の使い方、畝間に別の作物を一緒に栽培する「引きこし」、複数の作物の種をまぜて一緒に蒔きタイミングよく収穫するやり方など、身近な自然から学んできたたくさんの知恵を教えていただきました。長年経験を積み、どの畑には何の作物が適しているか、また土の状態や前作の出来をみて足りない物を判断できるようになるといいます。

午後には、ユイさんの夫である亘之さんに薪割りを体験させていただいたり、加工場や保管されている漬け物などの加工食品、昔ながらの農作業道具を紹介いただいたりと、予想を超える豊富な内容で有意義な時間を過ごしました。



● 受け継いでください！

ユイさんは長年、約七反の田畑をほとんどひとりで維持してきたそうです。亘之さんは日中は勤めに出ていたため、まわりの親戚の方などと助け合いながら、米、野菜、茶などを機械に頼らずできる範囲で作り続けてきました。研修生に対しても、最初からあまり手広くやろうとしないこと、あまり熱心になりすぎて周囲とトラブルにならないように、とアドバイスをされていた。

最後に見せていただいたワラでなった縄は、頑丈そのものながら、実は数十年使い続けているものだそう。自然からシンプルに作られたものの強さに、一同驚きを隠せません。「もしもビニールひもが無くなっても、畑にあるものでロープは作れるから大丈夫！」、「できることなら、私の知っていることはみんな教えますので、受け継いでください」と、楽しげにお話しいただきました。

ユイさんの豊富な引き出しと人柄に、たくさんの人が和田家に集うのも納得です。自然とともに培われてきた知恵と技を学んでいけば、無理も無駄もない、豊かな暮らしを続けていけるように思います。有機農業を志す若い研修生にとって、新鮮で心強い言葉をたくさんいただいた一日でした。

各部会活動

熊有研では、部会を作ってそれぞれ自主的に活動しています。興味がある活動と一緒に加わってみませんか？お気軽に事務局までお問合せください♪

菜の花プロジェクト

自生菜種の遺伝子チェック

一昨年に続いて2回目の県下における自生菜種の遺伝子チェック行動を行いました。今年は20検体分の検査試薬を用意してのぞみました。サンプル集めの協力を呼びかけたところ5人の協力者があり、おかげで県下広くからサンプルを集めることが出来ました。球磨、八代、宇城、熊本、玉名、山鹿、菊池の各地で計19件のチェックを行いました。全て陰性でした。一安心です。今後も機会を見つけて継続して遺伝子組換え汚染の監視を続けていこうと思います。



一方、菜の花プロジェクトはBDFの普及啓発を通してエネルギー問題を考えてきました。しかし3.11福島原発事故はそうした活動をもっともっと本気で取り組んでいかなければならないことを見つけました。

「原発のない世界を作るためにエネルギー問題にどう取り組むか」という観点からもう一度考えてみたいと思います。

〈菜の花プロジェクト 間司〉

食農育部

活動計画(2013年4月～2014年3月)

方針：世界でも稀にみる生活文化国日本を誇りに思う。

- ・農村地域の環境保全のため食農育活動を作物を通して推進していく
- ・県内の食育活動の団体との連携を進めていく
- ・日本古来の伝統食を確認し、時代に合う活動のあり方を工夫し進めていく

活動予定～農との関わりを基本に～

2013年4月 石嶮工場見学(山鹿市地の塩社)

9月20日 環境と石嶮(生活講座)

これ以上汚さない大切な台地

11月 ゆうきフェスタ 旬の農産加工と保存食

2014年2月 手造りみそ体験講座

～新たに加わった仲間と力を併せて躍動します～

〈食農育部 岸川厚子〉

青年部

2013年度 青年部これからの予定

- ・「九州山口・若けえもん集い」の交流会に今年も参加予定。(今年は福岡県の方々の主催です。)
開催日：2013年8月17日(土)～18日(日)
開催エリア：久留米～八女市黒木
宿泊場所：八女市黒木町「えがの森」
- ・新規の部員歓迎いたします。新規就農者や農業後継者、流通販売者、一般消費者など有機農業に興味のある方。気持ち若い方であれば年齢は問いません。熊有研事務局、または担当安藤(090-7012-4442)までお問合せください。

〈青年部 安藤光一〉

種苗部

「種の未来交流会

～あなたの大好きな野菜の種を広げましょう～開催!

日時：2013年8月10日(土)～11日(日)

場所：熊本県菊池市七城町林原 七城温泉ドーム内

TEL：0968-26-4800

10日：船越建明氏講演「広島ジーンバンク設立の意義と農家による自家採取のすすめ」、種苗交換会、懇親会
11日：現地見学会2コース 百草園・万菜村(植木)か雑穀の東農園(ろのわ生産農家 旭志町)

〈種苗部 徳田 勇次〉

参加者大募集中！
詳しくはHPか事務局まで♪

生ごみ循環プロジェクト

- ・6月より今年度の熊本市のダンボールコンポスト講座が始まりました。今年からは、基材を地産地消の「竹チップ」に替えて実施できることになりました。
- ・コンポストを面として広げるために、保育園と自治会に協力をいただき、地区展開も準備中です。
- ・6月13日(木)には、プラスチック製容器包装リサイクルの現場を知るため、「リサイクル見学ツアー」を実施しました。



BAOBAB バオバブ 一人でも来れて、ゆったり落ち着ける場所

市街地のマンションの一室にて経営されている「バオバブ」。場所柄からして隠れ家的なお店。こじんまりしているという予想でしたが、実際は広々としていてテラス席もあり、さっそくそちらを陣取って取材(食事)に専念させていただきました。使用される産地直結の有機野菜は、ナイジェリア出身の旦那様が研修先の植木町から調達されるそうです。また、料理に使用されるパームオイルは、「ナイジェリアで搾ってきました」とのこと。

頼んだ3品のうちのひとつ・ひき肉ミンチ炒めご飯は、大根・ニンジン・ピーマンなどが具材のチャーハンで、見た感じ普通ですが食べると後引く味で、全員が「いいね!」と認めて3ポイント獲得。その理由を「野菜が美味しいからですよ」と奥様・山本枝美子さんは説明されています。その他2種類のカレーも、トマトカレーはマイルド、豆カレーはスパイシーであり、それぞれに個々の野菜が持つ甘みを感じました。子供や高齢者でも馴染めそうな穏やかな味付けが、コクのある酵素玄米と調和していました。(皿の中の)自然界の調和っぷりがまさにアフリカ?! デザートの塩ケーキも美味でしたが、アフリカビールとエスニックチキンを共に味わう楽しみは今回見送りととなりました…また別の機会に!

〈広報部 松本恵美〉



BAOBAB
熊本市上林3-34-302
TEL:096-324-9255
HP:7月完成予定

◆4～6月活動報告◆

- 4/3(水) 有機JAS講習会(植木)
 4/5(金) 2013年度養成塾開始式
 4/18(木) ゆうきフェスタ2013実行委員会
 4/24(水) 養成塾集合セミナー
 4/27(土) 第1回理事会
 4/28(日) 第1回判定委員会
 5/7(火) 九州山口有機農業世話人会(熊本)
 5/15(水) 養成塾集合セミナー、審査員研修会
 5/23(木) ゆうきフェスタ2013実行委員会
 5/25(土) 第2回理事会
 6/3(月) 2012年度養成塾修了式
 6/6-7 認定機関連絡会議、資材評価協議会総会(埼玉)、有機JAS協議会総会(東京)
 6/9(日) 第14回通常総会
 6/16(日) 第2回判定委員会
 6/20(木) ゆうきフェスタ2013実行委員会
 6/27(木) 有機JAS講習会(御船)

○●今後の予定●○

- 7/10(水) 審査員研修会
 7/17(水) グリーン消費者セミナー
 7/23(火) 熊本県有機農業研修会「タネが危ない」
 7/24(水) 養成塾集合セミナー
 7/28-29 第3回理事会、理事・事務局員研修会
 8/4(日) 第3回判定委員会
 8/10-11 種の未来交流会(七城町)
 8/17-18 若えものの集い(久留米)



※「有機栽培技術の手引き」3種が公開中！
 (一財)日本土壌協会HPにて、「有機栽培技術の手引き」が公開されています。現在、野菜類等編、水稲・大豆等編、果樹・茶編の3種、いずれも全国の有機農業実践者から技術や知見を集め作成され、約三百〜四百ページのボリュームです。

第14回通常総会報告

事業年度を4月始まりに変更したことにより、3月末で第14期が終了したため、6月9日(日)、フードパル熊本食品交流会館にて第14回通常総会を開催しました。2013年度14期(1～3月)事業報告・決算、2013年度15期(4月～)事業計画・予算を審議、承認しました。第5号議案として、昨年のNPO法改正を受けた定款変更を行いました。

また次期予算提案の際に、会費については、第14期(1～3月)の3ヶ月分を計算し徴収させていただく旨提案し、承認されました。

【14期(2013年1～3月)会費】
 個人正会員・準会員 500円
 団体正会員 7,500円
 団体賛助会員 5,000円



会場では手作りおやつでおもてなし。有機野菜のお土産も大好評でした！

総会同時企画！

「サルでもわかるTPP」著者
 安田美絵氏

TPP講演会



参加の是非が問われているTPPについて、講師に『サルでもわかるTPP』の著者・安田美絵氏を招きお話しいただいた。会員・一般合わせ約80名が聴講、会場は満員となった。

自由貿易の名の下、TPPに参加すれば、①関税の撤廃により貿易の自由化が進み日本製品の輸出額が増大する、②整備・貿易障壁の撤廃により大手製造業企業にとっては企業内貿易が効率化し利益が増える、③グローバル化を加速させることにより、GDPが10年間で2.7兆円増加すると見積もられている等、メリットが言われているが、果たしてそれは本当だろうか？

それに対しデメリットは、①食品添加物・遺伝子組換え・残留農薬などの規制緩和により、食の安全が脅かされる。ポジティブリスト制度や食品の表示制度が形骸化する。今よりもなお食料自給率が低下し天候不順などによる相場の高騰、②関税の撤廃により米国等から安い農作物(特に米)が流入し、日本の農業に大きなダメージを与える、③海外の安価な商品が流入することでデフレを引き起こす可能性がある、④医療保険の自由化・混合診療の解禁により、国保制度の圧迫や医療格差が広がると危惧されている。

経済成長ばかりが優先され、食と健康や命という、国民一人一人の生活の根幹に関わるこの大きな問題に対し、国はどこまで責任を持つのか。自由、経済成長という言葉は耳に心地よいが、その裏にある国民の命に対する責任を果たしてほしい。(事務局・松村)

広報部 編集後記



このタイトルは、熊有研会報第1号から使われていたものを縮小したものです。

※「有機農業分野」で応募可能！環境保全型農業推進コンクール募集中！
 全国環境保全型農業推進会議主催で、有機農業や環境保全型農業の取り組みを表彰するコンクールが実施されています。対象は農業者・新規就農者・流通消費関係団体など、べ切りは7月31日です。詳細は主催者HPまたは熊有研事務局まで。

▼家(兼事務所)のそばには川や田んぼがあるので、蛙のコーラスの中ホタルが飛び交っておりま。人が見に来るほどの数でもないのですが、毎夜独占状態で眺めています。
 川辺にて 今年も独りでホタル狩り (松本)
 ▼現在、熊有研を代表して、くまもと有機農業推進ネットワークでの有機農業白書の作成に参加しています。取材、会議ともに大変勉強になっています(兼瀬)
 ▼連日の蒸し暑さにやられていますが、通勤途中に素敵な風景を発見しました。広々とした田んぼに水が入り、かわいい苗が植えられ空が移る様子は季節だけの絶景です(出田)

チケット利用可能店

- *エヴァダイニング(福岡市)
 *レストラン大河(益城町)
 *泉力の湯(西原村)
 *カフェテラス野の花(黒髪)
 *プライベートロッジ(並木坂)
 *土に命と愛あててティア(本山町)
 *ピストロ・シェ・ル・コパン(山鹿市)
 *ちやぶ台(玉名市)
 *風流(西原村)
 *ピオサルーテ(駕町通)
 *オルモ・コピア(阿蘇市)

<順不同、6月現在>

種*花クイズ 応募方法

表紙のクイズの答え・住所・氏名・電話番号・ゆうきの感想をお書き添えの上、郵送かFAXまたはメールにて、下記宛先までご応募ください。

●問合せ・応募先

〒861-8028 熊本市東区新南部 2-5-13

FAX:096-223-6772

MAIL: info@kumayuken.org

※前回のこたえは「レタス」でした。